

大地の恵みと共に育む、豊かな生活

# だい、ちかう

特別な会員の皆さまだけにお届けいたします

【読者限定企画】  
高倉健さんの特別アイテムプレゼント!  
「美食同源」  
きりたんぽ鍋  
「健康長寿の学校」  
粘膜パワーを高めて  
体の内側から健康になる!

人形作家の感性  
家族の思いをつなぐ雛人形  
「春夏秋冬～雅な歳時記～」

大地の恵みに真心をのせて  
**健康家族**

vol.62  
2月号

特別な会員の  
皆さまだけに  
お届けいたします

(集合8:30ごろ)  
京都駅集合  
京都駅にて解散  
(17:30ごろ)

日帰り。  
添乗員同行!

ゆっくりとご見学!  
世界文化遺産  
「清水寺」

ダミー

『世界文化遺産めぐり』  
バスツアー  
参加者大募集!

2017年  
4月22日(土)  
参加費無料

国指定重要文化財  
世界文化遺産  
「二条城」

ダミー

国指定重要文化財  
世界文化遺産  
「金閣寺」

ダミー

まずは「清水の舞台」で知られる清水寺で京都の街並みを一望。その後は、二条城や金閣寺など絶対に外せない定番スポットを巡ります。ランチは名物の湯豆腐を堪能。手描き友禅のオリジナルハンカチづくりもお楽しみいただけます。ふるってご応募ください。

ツアーコメント  
ツアーのご参加は抽選となります。当選者さまには3月中旬～下旬頃までに、お電話にてお知らせいたします。

○食事は昼食の一回のみです。○京都駅の発着となります。○添乗員が同行いたします。  
○「バス代、昼食代、清水寺拝観料、二条城入城料、金閣寺拝観料、手描き友禅体験料」以外の現地までの交通費などはお客様ご負担となります。

申し込み方法  
郵便ハガキに代表者の住所・氏名・年齢・電話番号・お客様番号・同伴者の方の間柄と氏名(ふりがな)と年齢をご記入のうえ、下記の宛先までお申し込みください。  
※ご連絡をスムーズに行うため、携帯電話をお持ちの方は携帯電話の番号のご記入をお願いいたします。

〒892-8791 (住所不要)  
健康家族『京都めぐりツアー』  
締切:2017年3月10日(金)必着

※電話、FAX、インターネットでのお申し込みは受け付けておりません。

ハガキのみでの受付となります。

**f** facebook 健康家族公式ページ ▶ <http://www.facebook.com/kenkoukazoku/>  
社内の情報や鹿児島の旬な情報等をお届けします♪

大地の恵みに真心をのせて  
**健康家族**  
〒892-8791 鹿児島市平之町10-2  
TEL:099-239-4424

0120-315-315  
営業時間 月～金 8:00～21:00 土・日・祝 9:00～17:00  
(上記時間外は自動音声での受付となります。ガイダンスに従ってご用件をお話しください。)

J-DMA<sup>®</sup>  
公認会員 日本通信衛生協会会員  
18560008(09)

QRコード

# 人形作家の感性

家族の思いをつなぐ雛人形



女の子の健やかな成長を願つて行われる3月3日の雛祭り。この特別な日に愛情を込めて飾られる雛人形は、伝統を受け継ぎながら時代とともに進化しています。

今回は、雛人形の歴史と魅力について、

女流人形作家・東之華さんにお話を伺いました。

## 平安時代に誕生した 雛人形の原型

雛祭りの歴史はたいへん古く、その起源は約千年も昔、平安時代にまでさかのぼります。当時、三月最初の巳の日

に、人の身代わりとなつて厄を引き受けてもらう「人形」をつくつて無病息災のお祓いをする行事が貴族の間で行われていました。

江戸時代に入ると、それが「お人形遊び」と結びつき、調度品を揃えて飾る「雛祭り」と

して庶民の間にも広がっていきます。その由来からもわかるように、昔から雛人形は「玩具」というよりも「お守り」のような存在であると考えられます。

現在の雛人形は、座った姿

の「座雛」が一般的になつていますが、歴史的に言うと、立ち姿の「立雛」が最初で、座雛はその後に登場します。立ち

姿の美しさや身体のラインが強調される立雛は、衣装を綺麗に着せるために高度な技術が必要とされ、座雛に比べて

手間もかかるため、時代を追ります。女流人形作家・東之華さんにお話を伺いました。

いざれにしても雛人形は、一生を見守ってくれるものですが、基本的には一度買ったら、基本的に一度買わなければなりません。ですから、一度買わないと買い替えるということはしません。ですから、私たち人形作家は、ずっと大切に持つていていただけるように丹精込めて雛人形をつくります。

東之華さん

鹿児島県生まれ。高校卒業後上京し、女優として活動する。百貨店主催の伝統工芸展にて、人形師・東之湖氏の雛人形製作実演を目にしたことをきっかけに同氏に師事。滋賀県へ拠点を移し人形作家の道へ進む。2009年、初の雛人形作品「藍桜」を発表。以来、女性ならではの感性を生かした雛人形で注目を集めている。



雛人形は家族の歴史をつなぐもの。  
ずっと大切に飾っていただきたいですね。

### 女性ならではの感性でつくる 色彩豊かな雛人形

雛人形の製作方法には「強拵え」と「柔拵え」の2つがあります。強拵えは型にはめたように整える着せ付け方で、着物の裏側に和紙などで裏打ちをします。

形ははっきりと出ますが、仕上がりの雰囲気は固くなります。それに対して、柔拵えは生地の柔らかさを生かした着せ付け方で、ゆったりとした仕上がりになります。私の作品は基本的に柔拵えとともにこだわっているのが色彩です。私は日本伝統の配色法である「襲色目」を大事にしています。これは、四季折々の変化を色の合わせ方で表現するのですが、伝統色にトレンドカラーを組み合わせて新しい襲色目にしていくことも試みています。日本の色彩の歴史についてもたくさん勉強することにこだわっています。

拵えとともにこだわっているのが色彩です。私は日本伝統の配色法である「襲色目」を大事にしています。これは、四季折々の変化を色の合わせ方で表現するのですが、伝統色にトレンドカラーレーを組み合わせて新しい襲色目にしていくことも試みています。日本の色彩の歴史についてもたくさん勉強をし

ました。平安時代は「色の黄金時代」とも言われるほど多くの色があり、それを貴族たちは楽しんでいました。現代の人にも楽しんでいただけるよう工夫を凝らしています。

私にとって雛人形はモデルさんのようないいものです。あくまでも主役は雛人形。つくり手の私は黒子の存在です。雛壇を舞台のような仕立てにするのもそぞうした気持ちからなんですね。



分業で製作されている工房も多い中、衣装からお顔まですべての工程を手づくり。お客さまへのお届けも自ら行い、飾り付けのアドバイスまで行う。

昔の人々は、雛祭りを通して幼児教育も行っていました。モノの大切さを教えたり、お花の飾り方、菱餅のつくり

平安時代から始まった雛祭りという文化が、平成の現在になつても連綿と続いていることに私はとても魅了されます。時空を超えて雛人形でつながっている、そういうところに壮大なものを感じてしまいます。

### 雛人形は女の子の成長を見守り続ける



滋賀県草津市の巧房を拠点に真心を込めた雛人形を発信している。  
「人形巧房ひなや」  
<http://touka-hinaya.com/>

方など、たくさんのことを子どもに教えていました。女の子の嫁入り修行も兼ねていたんですね。最初はままごと遊びのように楽しんでいるうちに、成長して色々なことが分かるようになると、雛祭りとともに大人の女性へと成長していくんです。

もう一つ、雛人形は家族の歴史をつなぐものもあります。「お雛様はこういうものだよ」と教えられた子どもが大きくなつて親になり、子ども時代に教えられたことを、また自分の子どもに教える。そうした家族の歴史に関わることのできる雛人形というのは素敵なものだと思います。ですから、ずっと大切にできるものを選んで、家族みんなで飾って、お祝いをしていただきたいですね。



装飾を一つひとつ丁寧に施されたお雛様は、後ろ姿も美しい。

高貴な色の象徴とされる「黒紫」を頂点に、色で地位を表現した七段飾り。